

# 放送大学大学院文化科学研究科

---

## 人間発達科学プログラム

# プログラムの人材養成目的

---

- 人間発達科学プログラムは、心理と教育に関する科学的・実証的な調査研究の方法と専門的知見を有し、家庭、教育機関、地域社会等の諸分野で実践的に活動できる指導的人材の養成を目的とします。

# 求める学生像

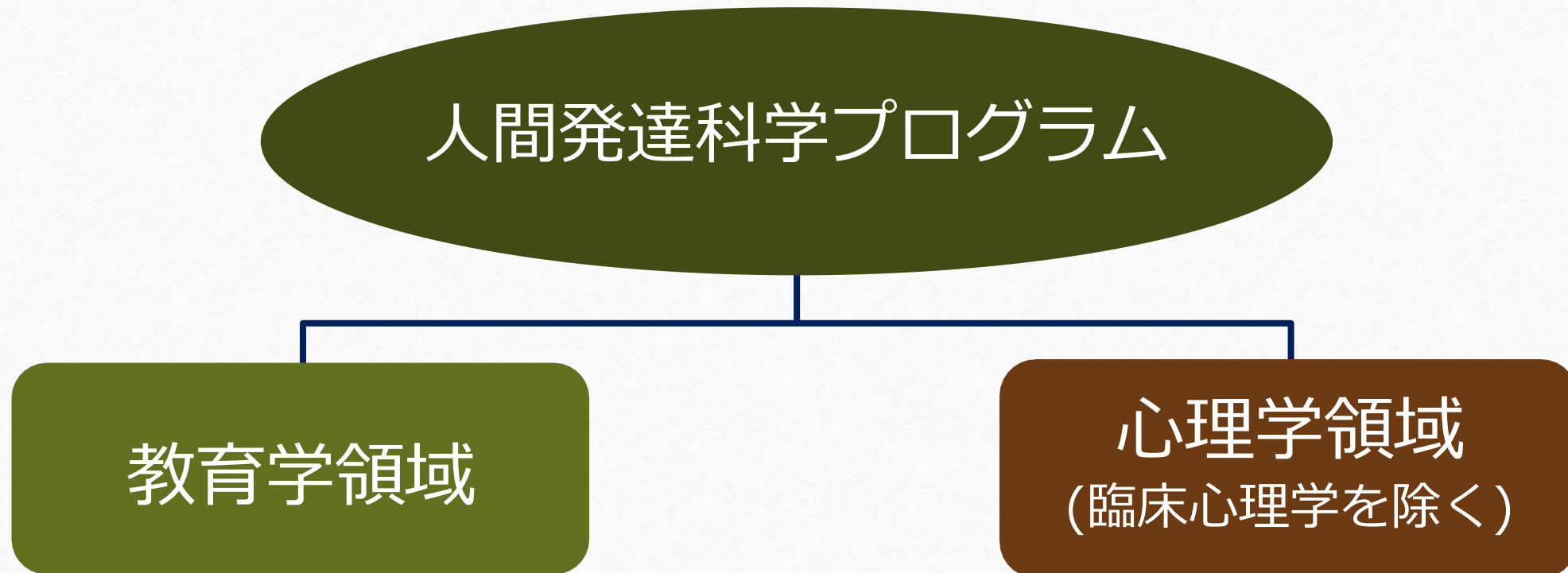
---

☆ 人間発達の心理的・教育的な問題に強い課題意識と  
学習意欲を有する人

☆ 上記の問題を科学的・実証的に考え分析して課題に  
積極的に取り組もうとする熱意のある人

# プログラムの特徴

人間発達科学プログラムを構成する2領域



## 研究指導担当教員（専任教員のみ）

教育学	苑 復傑	教育経済学・遠隔高等教育
	橋本 鉦市	高等教育論
	松本 大	社会教育学・成人教育学・生涯学習論
	櫻井 直輝	教育政策・教育行財政学
	小林 祐紀	カリキュラム・教育実践研究
心理学	進藤 聡彦	教育心理学
	向田 久美子	発達心理学・文化心理学
	森 津太子	社会心理学
	高橋 秀明	認知心理学・情報生態学

# プログラム指導法の特徴

## 指導方法

---

- ☆ 一般に、月一回程度、千葉（幕張）の大学本部、または東京文京学習センターなどで対面のゼミ形式の指導
- ☆ 遠隔地に居住で、毎回は来られないという方には、E-mailやWEB会議システムなどを使っての指導

# 修士課程の修学の流れ

学年	時期	事項		
1年	4月	入学	授業科目の履修	指導教員による研究指導
	8月	研究レポート1提出		
	2月	研究レポート2提出		
2年	8月	研究レポート3（修士論文草稿）提出		
	12月	修士論文提出		
	1月	口頭試問		
	3月	修士課程修了		

授業科目の履修

# 研究レポートとは

---

- ☆ 研究レポートは修士論文の完成までのプロセスで、研究の進捗状況の報告で、修士論文の完成までの小目標といった性質のもの
  
- ☆ 例えば
  - ✓ 研究レポート1で自身の研究テーマに関する先行研究のまとめと実験や調査の立案まで
  - ✓ 研究レポート2で実験や調査を実施し、その結果の集計まで
  - ✓ 研究レポート3で結果の分析まで  
(研究レポート3を修士論文草稿と位置づける場合もある)

# 過去の修士論文のタイトル例

領域	論文タイトル例
心理学	アダルト・チルドレンにおけるアイデンティティ形成プロセスと生きづらさからの「回復」に与える影響に関する量的・質的研究
	有機農業の熟達生産者育成に向けた課題の抽出 – 生産者の熟達プロセスを中心とした検討 –
	精神保健福祉士のキャリアコミットメントが離職意思に与える影響 – 組織コミットメントの媒介効果と努力-報酬不均衡の調整効果の検証 –
	高校生・大学生による「聞き書き」実践の学習成果に関する探索的研究 – 地域理解教育、キャリア教育としての聞き書き –
教育学	米国の大学におけるアカデミック・アドバイジングの実践 – スチューデント・サクセスとの関わりに着目して –
	「ゆるやかな連合体」をめざす放課後の居場所づくり
	国立大学における入試事務組織の研究 – 入試多様化が進行する状況下における大学内組織の現状と課題 –
	高等学校における通級による指導についての研究

# 修了生からのアドバイス

---

- ☆ ゼミに参加して、他の方の研究についても質問することも勉強になりますし、自身の研究に関しても様々な意見を求めることが重要だと思います。そうすることで視野も広がり、行き詰まった時にも大きなブレイクスルー（突破口）を発見することができるかと思います
- ☆ 実験調査の対象や実験協力者に可能な限り早めにアポイントメントを取ることです。これに調査準備も合わせるとかなり労力を要します。量的な分析をしようとする、調査対象の人数の十分な確保も必要になると思いますので、これに早めに取り組むか否かで、その後の分析に使える時間も大幅に変わると思います
- ☆ 1年目にできるだけ、科目で必要な単位をそろえておいて、なるべくなら2年目は、修士論文のデータ分析や執筆に時間を集中的に充てられるよう調整するといと思います

## 修了生からのアドバイス

- ☆ 修士論文を書くために必要となる技能や知識を、卒業に必要な単位として必要な授業で習得すれば一石二鳥になります。（私の場合、統計分析に関わる知識や技能が苦手・不足と自覚していましたが、1年目の授業で積極的にこの分野を選択して習得しました）
- ☆ ゼミには積極的に出席して報告する。（私の場合、ゼミで報告する内容に自信があったわけでは、全然ありません。しかし、ゼミの日程が決まっているので、その時までにとまとまったことや今やっていることを報告するようにしました。そうでないと、一人では絶対に論文の調査も分析も進んでいかなかったはずですが、ゼミに出られない時も、この1か月はこのようなことをしました、とメールで報告するように心がけました。こんなふうにゼミという区切りがあったので、少しずつ進んで来られました。）
- ☆ いろいろな論文を読むと、段々、具体的な方針が見えてきます。

## 修了生からのアドバイス

- ☆ 他の人の異なるテーマの話題にも積極的に参加すること。意外なところに共通の課題が見えてきます。
- ☆ はっきり言って、仕事に忙殺されてしまい、正直なところ何度もくじけそうになりました。担当の先生は勿論ですが、同じゼミの方々との繋がりもとても大切です。人間は一人では弱いので、同じゼミ生の頑張りや励ましが、自分を引っ張ってってくれたとも思うからです。
- ☆ ゼミを一つの目安として研究を進めることがモチベーションの維持や進捗具合に大きな影響を及ぼすと思います。

人間発達科学プログラムの紹介は以上です。  
皆さまに来年の4月にお目にかかるのを楽しみにしています。